

群 教 セ	G11 - 03
	平26.252集
	特活 - 小

互いの考えのよさを認め合い、 より良い話し合いができる児童の育成

— 意見の比較をしやすい黒板掲示の工夫を通して —

特別研修員 高井 裕一

I 研究テーマ設定の理由

平成26年度学校教育の指針には、特別活動の指導の重点として、輪番制による計画委員会を組織し、学級で話し合うべき必要感のある議題を設定することや、児童が充実感や存在感を味わえるような自治的、自発的な活動を取り入れることが述べられている。

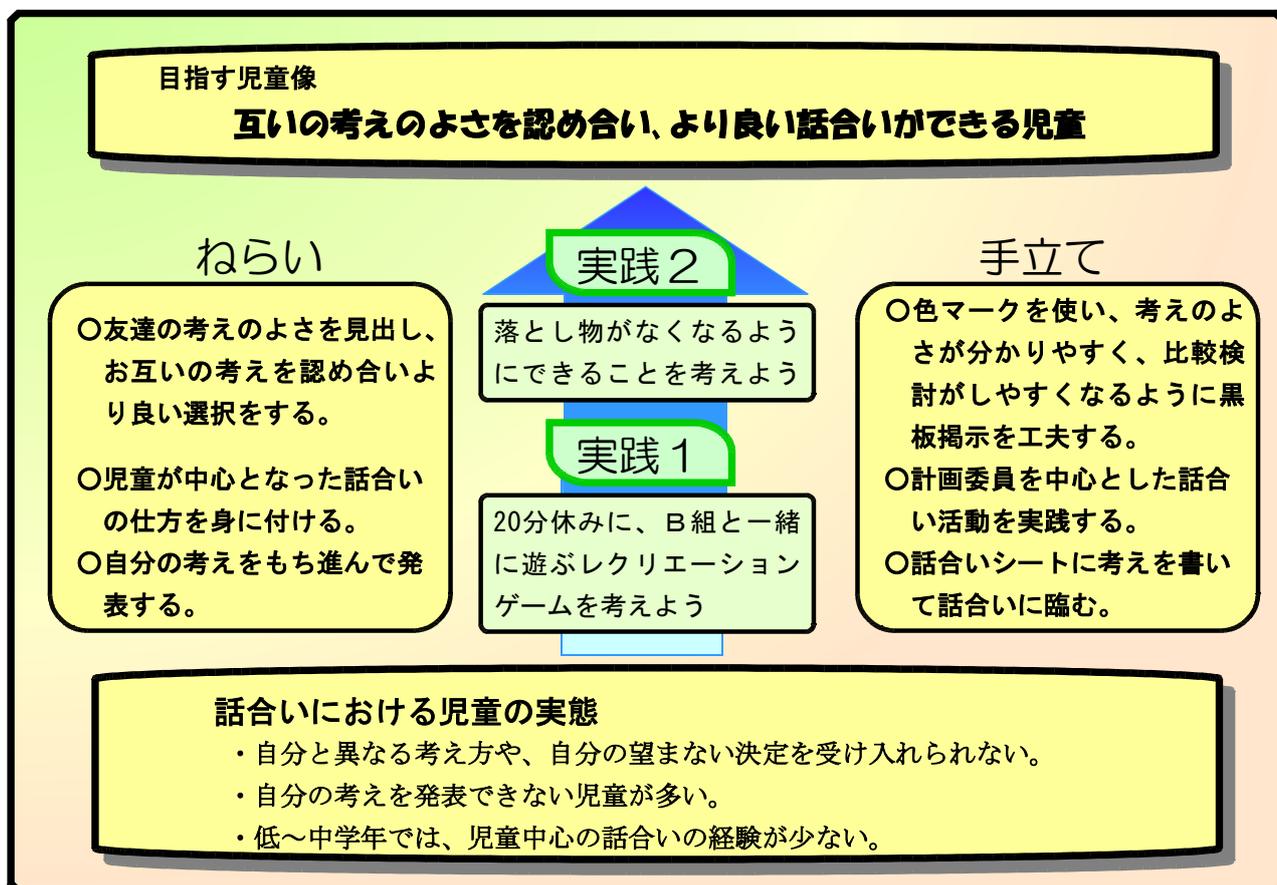
本校における中学年の児童は、話し合い活動において、自分の考えを積極的に発言できる児童もいれば、自分の考えを持っていても、自信がもてず、発言できない児童もいる。また、児童主体の話し合い活動の経験が少ないこともあり、教師主導で児童の意見を引き出すような話し合い活動を行ってきた。

そこで、輪番制による計画委員会を中心とした話し合い活動を実践し、その中で、児童が自信を持って自分の考えを発言できるように、話し合いシートを使い、事前に自分の考えを書いてから話し合い活動に参加するようにした。また、「比べ合う」活動を充実させ、話し合い活動を活性化させるために、色マークを使い、意見の意見の比較をしやすい黒板掲示を工夫するようにした。

このように、児童が主体となった話し合い活動を計画的・継続的に行うことを通して、互いの考えのよさを認め合い、より良い話し合いができる児童を育成できると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 議題「20分休みに、B組と一緒に遊ぶレクリエーションゲームを考えよう」(実践2)

〈実践2における研究上の手立て〉

- 事前に議題を知らせ、「話し合いシート」に考えや理由を書きおくことで、自分の考えを自信を持って発表できるようにする。
- 色マークを使うことで、それぞれの意見のよさについて十分に比較検討する。

本議題におけるねらいは「自分の考えを持ち、話し合いの中で発表する」「意見の中からよさを見出し、そのよさを比べ合ってより良い選択をする」の2点である。1点目については、事前に議題を知らせ、「話し合いシート」に考えを記入しておくことで、話し合いの場で、児童が自信を持って自分の意見を発表できると考える。また、理由も書かせることで、その考えのよさについても伝えられるようにしておく。2点目については、やりたいゲームのよさを挙げたり、同じよさを持つゲームを探したりする場面で色別のマークを使うことによって、ゲームごとのよさが可視化でき、よさの比べ合いがしやすくなると考える。

(2) 議題「落とし物がなくなるようにできることを考えよう」(実践3)

〈実践3における研究上の手立て〉

- 計画委員との打ち合わせにより学級会の進行を工夫することで、話し合いの時間を確保する。
- 色マークを活用した黒板掲示により、比較検討がしやすいように意見を絞る。

本議題におけるねらいは「話し合いの時間を確保し、一人一人の思いを十分に伝え合う」「効果的に意見の数を絞り、比較検討がしやすい黒板掲示を工夫する」の2点である。1点目については、あらかじめ黒板に掲示しておく提案の数を調整したり、比べ合いがよりスムーズになるような進行の仕方を司会と確認したりするなどの準備をしておくことで、話し合う時間を多く確保できると考える。2点目については、「比べ合う」過程で、比べ合いの観点となる、理由(提案のよさ)を、共通点や類似点を基にして絞り込み、比較検討をしやすくすることで、折り合いをつけたり、折衷案を考え出したりするなどの集団決定ができるようになると思う。

III 研究のまとめ

1 成果

「話し合いシート」の活用により、児童は自分の考えや理由、自分にとっての議題の必要感を明確にすることができ、積極的に発言することができた。また、色マークを使うことにより、意見のよさを可視化でき、比べ合いや集団決定に生かすことができた。さらに、「話し合いシート」の内容を事前に把握しておくことにより、「出し合う」過程や「比べ合う」過程で、黒板掲示や進め方を工夫することができた。

2 課題

「出し合う」過程で発言が多くなったとき、板書に時間を費やしたり、話し合いの観点がそれたりした。話し合いの進め方、教師の支援の仕方について工夫する必要がある。また、「比べ合う」過程で比べ合いの観点多いと、効果的な比べ合いが難しくなる。議題の内容を吟味し、比べ合いや集団決定をする上で重要となる観点は何かについて確認し、それに沿った比べ合いができるように工夫する必要がある。

3 提言

学級の課題の解決に向けて、自分たちで主体的に取り組む児童を育成するために、輪番制による計画委員会を継続的に実践することが大切です。また、中学年の児童が互いのよさを認め合い、より良い話し合いができるように、自分の意見を明らかにして話し合いに参加できる事前活動や、意見のよさや違いが分かりやすい黒板掲示を工夫しましょう。

＜授業実践＞

実践 1

1 議題名 「20分休みに、B組と一緒に遊ぶレクリエーションゲームを考えよう」(第3学年・2学期)

2 本議題及び本時について

本時は、自己存在感や所属意識のあるより良い学年を目指すために、学年で一緒に遊ぶレクリエーションゲームを決める話し合い活動である。話し合う内容は2つあり、それぞれ「どんなレクリエーションゲームにしたら良いか決めよう」〈話し合い1〉、「どんな準備が必要か考えよう」〈話し合い2〉とする。本時のねらいは、自分の考えを持ち、話し合いの中で発表すること、意見の中からよさを見出し、そのよさを比べ合って自分の意思でより良い選択をすることである。一人一人が自分の考えを発表したり、よさを確かめ比べ合ったりできるよう、本時の研究上の手立てを具体化した。

3 授業の実際

(1) 「出し合う」過程

事前に議題を児童に知らせ、「話し合いシート」(図1)に、自分にとっての議題の大切さ、自分の考えとその理由について記入しておいたことで、児童は議題に対する自分の考えや、一人一人にとっての議題の必要感を持ちながら話し合いに参加し、活発に考えを発表し合うことができた。また、話し合いの時間を確保するために、話し合いシートから児童の意見を事前に把握しておき、児童の希望する遊びをあらかじめ黒板に掲示することで、意見を出し合う時間の短縮や、集まっている意見の可視化が図れた(図2)。

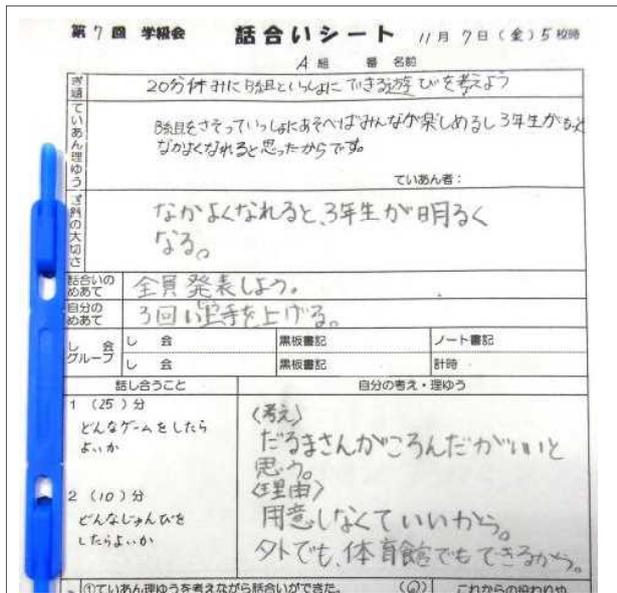


図1 話し合いシートの記入例

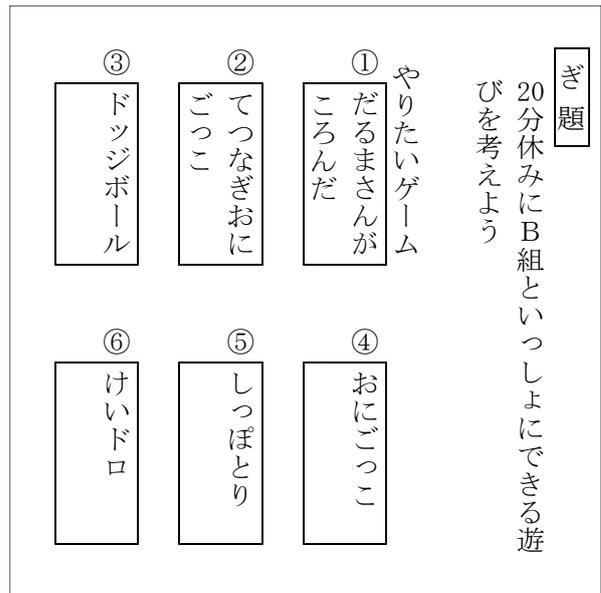


図2 児童の希望する遊びを掲示した黒板

「出し合う」過程で活発に考えを発表し合う様子

司会：(黒板に掲示した) ①～⑥の、どの案がいいと思いますか。いいと思う理由も教えてください。
 教師：(黒板書記に) 理由の一つ一つに色マークを付けて(図3)、同じ色のマークを遊びにも付けてください。
 S1：ドッジボールがいいと思います。A組B組でまざってチームになれるからです。
 S2：しっぽとりがいいと思います。A組がおにて、B組がにげることができるからです。
 S3：ドッジボールがいいと思います。人が多くても

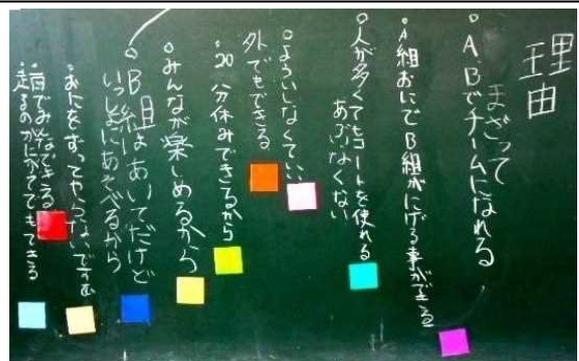


図3 やりたい遊びの理由と色マーク

コートを使えるし、あぶくないからです。

S 4：だるまさんがころんだがいいと思います。用意しなくてもいいからです。

S 5：けいドロがいいと思います。外でもできるからです。

S 6：ドッジボールがいいと思います。20分休みにできるからです。

S 7：ドッジボールがいいと思います。みんなが楽しめると思うからです。

S 8：てつなぎおにがいいと思います。いつもはB組は対戦相手だけど、一緒に遊べるからです。

(2)「比べ合う」過程

次に、一つの理由（提案のよさ）が、他の提案にも当てはまるかを、一つ一つ確かめ、それぞれの遊びにマークを付け足していった(図4)。

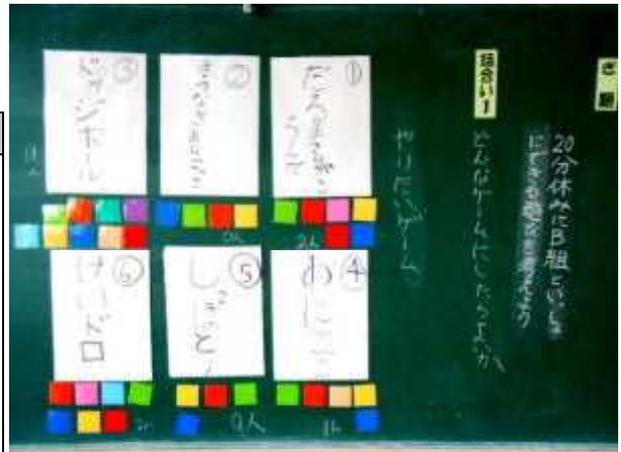


図4 たくさんの色マークが貼られた黒板

よさが当てはまるかどうか、一つ一つ確かめる様子

司会：青の、「いつもはB組は対戦相手だけど、いっしょに遊べる」が当てはまる遊びはどれだと思いますか。

S 1：ドッジボールです。

S 2：だるまさんがころんだです。

S 3：しっぽとりです。

S 4：おにごっこです。

S 5：けいドロです。

S 6：どれも当てはまるなあ。

上記の過程をどの理由に対しても繰り返し行ったため、時間がかかり、比べ合いの観点が広がってしまった。しかし、これにより、どの意見も理由に当てはまることを確認できた。

(3)「決める」過程

「決める」過程では、話し合いの前に、遊びごとの希望者数を把握した。その際、周囲に影響される児童が出ないように、希望する遊びの番号(①～⑥)を紙に書かせるようにした。この結果、ドッジボールの希望が多かった。ほかの3つの遊びについて、希望する児童が1～2名ずついたが、最終的には、「A組B組でまぎってチームになれる」(紫)、「用意しなくてもいい」(ピンク)、「20分休みにできる」(黄)、「みんなが楽しめる」(薄黄)、「いつもは対戦相手のB組と一緒に遊べる」(青)という、本議題の主旨に沿った条件の色マークが集まったドッジボールに決定した。

4 考察

事前に前頁図1のような「話し合いシート」に、議題の大切さや、考えと理由を記入しておいたことや、計画委員を中心に話し合いを進めていったことで、児童一人一人が、議題に対する必要感を持ったり、自分の考えを明確にして発言したりすることができた(図5)。

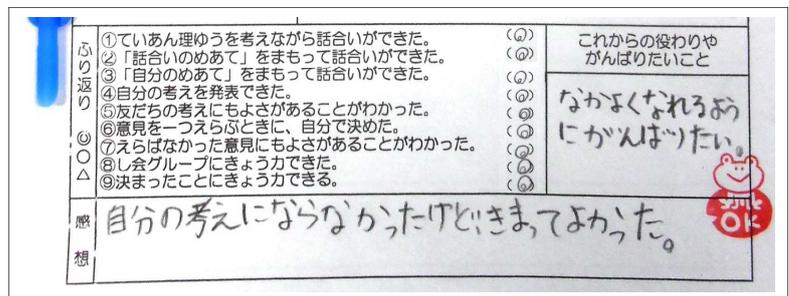


図5 話し合いシートによる振り返り

また、色マークを使うことにより、

どの遊びにどんなよさがあるかが可視化でき、児童の自己決定に生かすことができた。しかし、色マークを比べ合いの観点とする場合は、本議題における「20分休みにできる」「なかよくなれる」のように、議題の主旨に即して観点を絞った上で、比べ合いを行うと良いと思われる。そのためには、計画委員との打ち合わせで、議題の内容を吟味し、比べ合いや集団決定をする上で重要となる観点は何かについて検討したり、色マークをどのように使うとより効果的かについて確認したりしておく方が良いと考える。

実践 2

1 議題名 「落とし物がなくなるようにできることを考えよう」(第3学年・2学期)

2 本議題及び本時について

本時は、学級での日常生活の中から課題を見出し、その改善のためにできることを考える話し合い活動である。話し合う内容は「どんなことをするかを決めよう」〈話し合い1〉、「どのように実行するかを考えよう」〈話し合い2〉の2つである。本時のねらいは、一人一人が十分に考えを伝え合うこと、折り合いをつけながら集団決定することである。十分に思いを伝え合ったり、より良い集団決定をしたりできるよう、本時の研究上の手立てを次のように具体化した。

3 授業の実際

(1)「出し合う」過程

話し合いシートを基に事前に把握していた児童の意見を、提案①～⑤として黒板に掲示し、その理由(提案のよさ)を出し合った。実践2では、複数の提案に対し、順序を考慮せずに出し合いをしていたが、事前の司会グループとの打ち合わせにより、実践3では、提案①から順に提案ごとに理由を出し合うように改善した。その結果、進行がスムーズになり、板書整理もしやすくなった(図6)。また、「出し合う」過程の時間短縮を図ることができ、その後の話し合う時間の確保につながった。

提案①から順に理由を出し合う様子と黒板掲示

司会：みなさんから①～⑤の案が出ています。①の案を考えた人は、理由を言ってください。

S1：名前をつけておけば、落としても誰のかすぐ分かるからです。

(黒板書記は理由を書き、マークを貼る。同じ色のマークを提案にも貼る。)

S2：名前を書いてないと、落としたときに誰のか分からなくなるからです。

S3：落としても拾った人がすぐ分かるからです。

司会：②の理由がありますか。

S4：誰かが拾えば落とし物がへるし教室がきれいになるからです。

司会：③の理由がありますか。

S5：片付けないとえんぴつは転がって落ちてしまうからです。

S6：しまえば落とし物にならないからです。

司会：④の理由がありますか。誰かいませんか。(書いた児童がいたはずだが発言がないためとばす。)

司会：⑤の理由がありますか。

S7：自分のものが落っこちて、どこかにいってしまうかのうせいがあるからです。

議題
落としものがなくなるようにできることを考えよう

ていあん

① 名前をつける 緑 紫 オレンジ

② 近い人がひろう 紫 黄 赤

③ 使い終わったらしまう 黄 赤

④ 出さなければなしない 青

⑤ 自分のものは自分で整理する 緑

理由

緑 なまえをつけるとわかるから。

紫 オレンジひろった人がわかるから。

黄 おとしものがへるし教室がきれいになるから。

赤 かたづけないとゆかにおちてしまうから。

青 しまえばおとしものにならないから。

青 自分のものがおっこちて、どこかにいってしまうかのうせいがあるから。

図6 「出し合う」過程の黒板掲示 —提案①～⑤とその理由に付いた色マーク—

(2) 「比べ合う」過程

事前準備の段階で、話し合いシートに書かれた児童の意見を見ると、落とし物をなくすための手立てに対する理由（手立てのよさ）の多くが、どの手立てにも共通して当てはまるものであることが分かった。そのため、実践2のような、一つの意見の理由が、他の意見にも当てはまるかを確かめていくような比べ合いは効果的ではないと考え、本時の「比べ合う」過程の進め方について修正を図った。その結果、共通点や類似点を基に理由をまとめながら、比べ合いの観点（手立てのよさ）を絞ることができた。

共通点や類似点を基に理由をまとめ、観点を絞っていく様子（図7／参照：5頁図6）

司会：まとめられる理由はまとめていきたいと思います。①の理由の、緑とオレンジはまとめられますか。

S1：「名前をつけると拾った人が分かるから」にまとめられると思います。

教師：（黒板書記に）提案①は代表で緑を貼っておきましょう。

司会：③の理由の、黄色と赤はまとめられますか。

S2：「かたづける」と「しまう」は言葉の意味がだいたい一緒なので同じだと思います。

教師：（黒板書記に）提案③は赤を代表としましょう。

S3：（⑤の理由の）青も同じようなことを言っているの、赤にしていいと思います。

司会：いいですか。

多数：いいです。

教師：（黒板書記に）提案⑤の色も赤に変えましょう。

S4：④の理由はないですけど、④も赤になると思います。

S5：同じです。

教師：（②の理由の）紫は提案理由に書かれていた言葉で、①～⑤すべての提案に対して共通していることなので、全体から抜かしておくことにします。

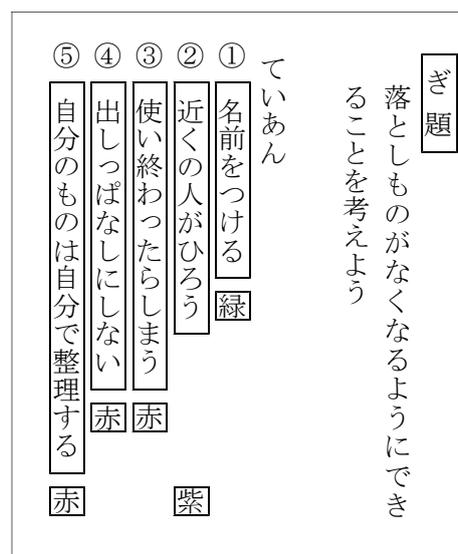


図7 色マークが整理された提案

(3) 「決める」過程

色マークを整理し、比較する提案が絞られたことで、集団決定に向けて意見をまとめやすくなった。

色マークを基に提案をまとめていく様子（参照：既出図7）

司会：（提案①～⑤のマークの色が）このようになりましたが、何か意見はありますか。

S1：赤のマークがついた③と④と⑤は、どれも赤が貼ってあるのでまとめられると思います。

司会：S1の意見についてどう思いますか。

多数：いいと思います。

司会：③④⑤をまとめていいですか。

多数：いいです。

教師：（司会に）③を代表にしておきましょう。

司会：他に何か意見はありますか。

S6：①と③もいいと思うので、2つを合わせて、「持ち物には名前を書いて、使ったらしまう」がいいと思います。

多数：賛成です。

4 考察

一人一人が十分に考えを伝え合うための時間を確保するために、「出し合う」過程と「比べ合う」過程において、進め方を工夫した。「出し合う」過程では、提案①から順に、理由だけに絞って意見を出したこと、「比べ合う」過程では、比べ合いの観点を整理したことにより、進行がスムーズになり、十分な話し合いの時間を作ることができた。また、色マークを使い、類似点や共通点を見つけ、意見の絞り込みをしたことで、2つの意見のよさを合わせる決定の仕方を実践できた。互いのよさを認め合える、より良い話し合いのために、事前に議題を吟味し、効果的な話し合いの進め方を考えるなどの準備が必要だと考える。